

工芸館の“花”展...

工芸館では、2004年から春の花の季節に合わせて、“花”をテーマにした所蔵作品展を企画し、これまでに

「人間国宝の花」(2005年)

「花より工芸」(2006年)

「花と人形」(2008年)

などのさまざまな視点で展覧会を開催してきました。

工芸作品には“花”を主体にした意匠や形が数多く見られます。

またそれらは、さまざまな素材や技法によって作家がイメージする“花”として映し出されています。

2009年の「花」展では、

“花”の模様や形にスポットをあて展示室を“花”で飾ります。

所蔵作品展

近代工芸の名品—花

東京国立近代美術館工芸館

2009年3月7日(土)～5月10日(日)

お問い合わせ先

広報担当

cg-pr@momat.go.jp

展覧会概要

工芸作品の意匠には、季節の移り変わりや自然の豊かな営みが映し込まれているものが数多く見られます。とくに、四季折々の変化と豊かさを端的に示す“花”という主題は、陶磁や染織、漆工、金工など、工芸のすべての分野において認めることができるほどに、もっとも一般的で、また、表現の幅が広いものの一つです。言うまでもなく工芸作品は、さまざまな素材と技法が駆使されてつくり出されていますが、その主題から生み出された形や意匠は、同じモチーフであっても、作家の思考や表現により多彩に変化し、時には、観る側にも新たな視点や発見を見せてくれます。

作家のイメージを映す花々は、作品の中では、具体的な形や文様が描かれる場合から、つくり手の創意のままに、自由に描く心象としての形や模様、色合い、さらには、観る側の見立てによる、それこそイメージまで、実に多様な姿になり表現されています。

本展覧会では、所蔵作品の中から、春の季節にふさわしく“花”を主題とした作品にスポットをあてます。作家のイメージを映し出した創意あふれる名品の数々をお楽しみください。

* 会期中、一部展示替えします。

【作品キャプション(上から)】

鈴田照次《木版摺更紗着物 花文》1979年

荒川豊蔵《志野茶碗 銘 氷梅》1970年



展覧会構成

I: “花”の意匠と模様

写実に基づいた模様から、それを基本としながら独自のアレンジを加えた模様まで、さまざまな花の姿を見ることができます。同じモチーフであっても、素材や技法が変わることで作品に映し出された“花”は多彩な表情を見せます。

富本憲吉、加藤土師萌、寺井直次、松田権六ほか。

【作品キャプション(左から)】

富本憲吉《色絵金銀彩四弁花染付風景文字模様壺》1957年

寺井直次《金胎蒔絵水指 春》1976年

松田権六《蒔絵玉すだれ文盤》1953年



II: “花”の形

口縁部を花卉形にした「輪花」と呼ばれる成形法が用いられた作品をはじめ、花卉の独特な形を器形に取り込んで表現している作品群を紹介します。

井上萬二、塚本快示、中川哲哉、増村益城ほか。

【作品キャプション(左から)】

井上萬二《白磁花形花器》1996年

増村益城《乾漆花蓋物》1978年



III: 心象としての“花”

イメージとしての形や色、あるいは模様は、作者のさまざまな心の動きや想いを映し出しているようにも見えます。また、観る側の創造力をかき立て、新たな視点や発見をも促すことでしょう。

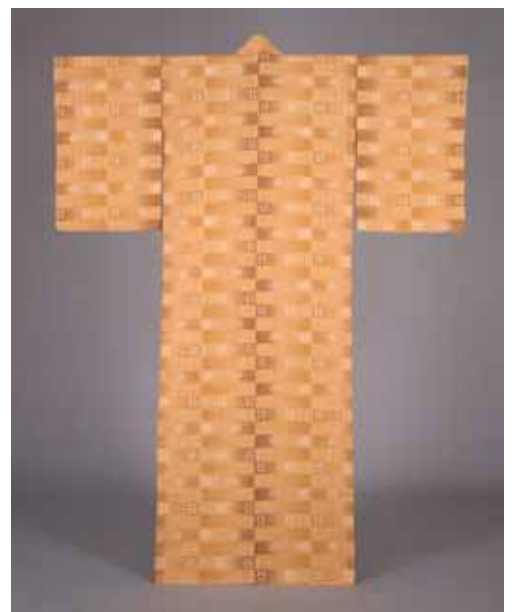
徳田八十吉、藤田喬平、音丸耕堂、宗廣力三ほか。

【作品キャプション(左から)】

藤田喬平《飾筥 夜桜》1996年

音丸耕堂《彫漆紫陽花茶器》1994年

宗廣力三《節絹織着物 花心》1979年 * 展示替え予定あり



タイトル (Title)	所蔵作品展 近代工芸の名品 花	
	Modern Japanese Crafts from the Museum Collection: Flower Design	
会期	2009年3月7日(土)～5月10日(日) *4月14日より、一部の作品を展示替	
開館時間	午前10時～午後5時 *入館は閉館30分前まで	
休館日	毎週月曜日(3月30日と5月4日は開館、5月7日休館) *3月24日～4月5日は休まず開館します!	
主催	東京国立近代美術館	
会場 (アクセス)	東京国立近代美術館工芸館 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園1-1 Crafts Gallery, The National Museum of Modern Art, Tokyo	
	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b出口 徒歩8分 東京メトロ東西線/半蔵門線・都営新宿線「九段下駅」2番出口 徒歩12分	
観覧料	一般 200 (100)円 大学生 70 (40)円 高校生以下および18歳未満、65歳以上、キャンパスメンバーズ、MOMATパスポートをお持ちの方、 障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名、は無料 *いずれも消費税込。()内は20名以上の団体料金。 *割引・無料には、学生証、年齢のわかるもの、障害者手帳等の提示が必要です。	
	観覧の当日に限り、美術館(徒歩5分)で開催中の各展覧会料金で、本展もご覧いただけます。 「高梨豊」展(企画展ギャラリー) 3月7日・8日のみ 「ビデオを待ちながら」展(企画展ギャラリー) 3月31日～本展最終日 「所蔵作品展 近代日本の美術」(所蔵品ギャラリー) 本展会期中の3月9～13日、30日以外	
無料観覧日	4月5日(日)、5月3日(日)	
イベント	ギャラリートーク	3月15日(日) 午後2時～ 唐澤昌宏(主任研究員) 4月19日(日) 午後2時～ 北村仁美(研究員)
	タッチ&トーク	ボランティアスタッフによる鑑賞プログラム。 会場でのトークと、“さわってみようコーナー”とでご案内します。 毎週水・土曜日 午後2時～
	*いずれも参加無料(要展覧会チケット) 申込不要	
お問い合わせ先 (掲載用)	03-5777-8600 (ハローダイヤル) または http://www.momat.go.jp/	
プレゼント	展覧会をご紹介いただける場合には、 読者プレゼント用招待券 をお渡してきます。	
人間国宝・ 巨匠コーナー	近代工芸を代表する作家の作品を紹介する展示コーナーです。 今回は、新収蔵作品を中心に、様々なジャンルから選りすぐった作品を紹介予定。 (詳細は決まり次第 HP でお知らせします)	

【作品キャプション】

鹿島一谷《布目象嵌露草文銀四分一接合水指》1977年



2009年 月 日 ()

FAX : 03-3211-7783 (工芸課) 広報担当行>>>

広報用図版請求票

作品図版はJPGデータをご用意しています。その他の形式については、事前にご相談ください。
 展覧会広報にのみご使用ください。著作権保護のため、他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
 掲載見本を広報担当へご寄贈くださいましたら幸いです。

No.	リリース掲載ページ	キャプション	所蔵
01	P.2 概要上	鈴田照次(木版摺更紗着物 花文)1979年	当館
02	P.2 概要下	荒川豊蔵(志野茶碗 銘 水梅)1970年	
03	P.2 構成 - 左	富本憲吉(色絵金銀彩四弁花染付風景文字模様壺)1957年	
04	P.2 構成 - 中	寺井直次(金胎蒔絵水指 春)1976年	
05	P.2 構成 - 右	松田権六(蒔絵玉すだれ文盤)1953年	
06	P.3 構成 - 左	井上萬二(白磁花形花器)1996年	
07	P.3 構成 - 右	増村益城(乾漆花蓋物)1978年	
08	P.3 構成 - 左	藤田喬平(飾筥 夜桜)1996年	
09	P.3 構成 - 中	音丸耕堂(彫漆紫陽花茶器)1994年	
10	P.3 構成 - 右	宗廣力三(節絹織着物 花心)1979年	
11	P.4	鹿島一谷(布目象嵌露草文銀四分一接合水指)1977年	

ご担当者名 _____ E-MAIL _____

貴社名 _____

出版物・放送番組・サイト名 _____
 (http://www. _____)

掲載予定号・発行日 / 放送・UP日時 _____

PHONE () _____ FAX () _____

〒

住所 _____

読者プレゼント用招待券をご希望される場合は してください。